

定年退職者より

組合に加入して30年になりませんが、いよいよ定年を迎えることになりました。組合に加入した当時は組合員数が今より多く、活動も活発だったように思います。日本社会も当時は現在よりずっとまともであったと思います。本部役員は3期務めました。役員期間中に国立大の教員の任期に関する法案に反対するため、国会に行き衆参両院の文教委員会の傍聴と国会議員への要請活動を行ったことなどが思い出に残っています。

(金研支部・小山富男さん・教員)
 組合活動の始まりは青年部でした。現在のように初任者研修や総合技術部もない時代で、他部局の人達との交流や情報交換などの横のつながりが持てたのは組合だけだったのです。当時、交流のあった方々

と再び総合技術部という場で一緒に活動できたことは嬉しくもあり、若かった時代を知っているだけに、本音での議論も可能となっていました。これからの人達もぜひ横のつながりを大事にして、将来の糧にしていってもらいたいと思います。ありがとうございます。

(農学部支部・山田てい子さん・技術職員)
 組合に加入して38年間、組合員であり続けたことに誇りをもっていきます。よく組合加入をメリット、デメリットで判断する人がいますが労働者という弱い立場である以上、何を守り手に働いていくのだろう。「仲間の団結」はお金には換えられないかけがえのない宝物です。活動には費用がかかる。組合費が高いと思うのであれば誰かを誘って組合員を増や

日本国憲法が危ない... なんて場合じゃなさそうだ

憲法「改正」の「1000名署名」や「語り部養成講座」など、憲法を改正している人たちの草根運動が広がっていると、職員組合の憲法学習会で聞いた。本気で「改正」しようとしているとのこと。私たちが3~4人規模でもいいので勉強会を数多く開き、たくさんの人に憲法「改正」の危険性を知らせていかないと取り返しのつかないことになると話した講師の表情に、危険性を知っているからこそだと聞いていて空恐ろしく感じた。

組合の中で憲法9条をめぐるいろいろな意見があるのはわかるが、そんなことを言っている場合ではないのではないだろうか？これまで戦争でひとを殺さなできたのは9条があったからというのは誰しもが認めるところである。しかし、政府が考えているのは、戦争でひとを殺したり殺されたりすることができるようにすることなのだ。若者の希望や夢を実現する手助けをするこの大学で働く私たちの役割は、希望や夢を奪うようなことには反対していかなければならないと思う。いつも思い出すのは(思い出したくないが)蛙は熱湯にいれると飛び跳ねて逃げるらしい。しかし、蛙が入っている水に徐々に熱を加えるとゆであがってしまうという。私たちは、そんな蛙になるのでなく、べき時に声をあげて行動することをしないと、本当に取り返しのつかない状況になってしまう。(M・T)

せば安くなる。組合がなくなったら暗黒の時代に逆戻り。その恐ろしさを想像できる人がどれくらいいるであろうか。今はまさに大学の危機、一人ひとりの小さな力が必要とされている。

(病院支部・北村裕子さん・看護師)
 今から30~40年前の二十代、青春時代を謳歌したなあと思います。スキー、山登り、社交ダンス、ギター、キャンプ等は組合活動の中で経験できました。加えて、組合活動を通じて出会った他の国公労働者や民間で働く労働者、学生、地域で活動する人たちとの交流は、私の人生にいい影響を与えてくれました。また、闘うために必要な学習もして、世の中の仕組みを知り、闘うべき本場の敵が見えてきました。さらに、「組合員」という肩書は、

職場での理不尽な出来事に遠慮なくものが言える「紋所」となっています。一人ひとり、小さな力でも、団結すると大きな力になることを教えてくれた「組合」でした。

(病院支部・高橋京さん・事務職員)



1/10 新春囲碁大会



1/16 新春交流会